和泉観ボラだより 第 12 号

2015.7 発行

〒594-0071　和泉市府中町 1-19-9（和泉府中駅前）　和泉市いずみの国観光おもてなし処気付「和泉観光ボランティアクラブ」

TEL：0725-40-5552　　FAX：0725-40-5553

★和泉観光ボランティアガイド養成講座開講☆

2015 年 9 月より「第 5 期 和泉観光ボランティアガイド養成講座」（定員 20 名）がスタートします。和泉観光ボランティアクラブでは、受講生の皆さんと一緒に和泉市の歴史・文化・観光等をわかりやすく、楽しく学んでいく機会を持ちたいと思いながら、講座を組み立てています。

和泉の観光、和泉の歴史、和泉に伝わる文化、和泉の産業、和泉の伝統工芸、和泉に語り継がれてきた民話や伝説、和泉の自然など、いろいろな側面から和泉について学習していきます。

和泉をもっと知りたい、和泉を再確認したい、和泉観光ボランティアガイドとして活動してみたい、そんな思いを抱かれている方のご参加をお待ちしています。

全講座受講が基本になりますが、9 回中 7 回以上受講されますと、最終日修了式に「修了証」を授与いたします。最終日に和泉観光ボランティアクラブのメンバーとの交流会を設けていますので、現役ボランティアのメンバーに訊いてみたいこと、相談したいことなどありましたら、いろいろ尋ねてみてください。

午前午後にわたる講座はお弁当をご持参ください。

講師、会場は都合により変更になる場合があります。

月日	時　間	講　座　内　容	講　師	場　所
9/10（木）	13:30～15:30	開講式		和泉市役所第 2 職員会館
		和泉市が考える観光	中尾 清さん（大阪観光大学名誉教授）	
		観光の効果と意義	長野 義則さん（近畿日本ツーリスト(株)）	
9/17（木）	13:30～15:30	和泉市の地質・地形・景観	渡邊 勉治郎さん（和泉観光ボランティアクラブ）	和泉市役所 2 号館 301 会議室
10/1（木）	13:30～15:30	和泉市の歴史 1	文化財振興課職員	信太の森ふるさと館
10/15（木）	13:30～15:30	和泉市の歴史 2	文化財振興課職員	和泉市いずみの国歴史館
10/29（木）	13:30～15:30	和泉市久保惣記念美術館	美術館学芸員	和泉市久保惣記念美術館
11/5（木）	10:00～12:00	熊野街道の歴史	月山 渉さん（熊野古道案内人）	和泉市役所 2 号館 301 会議室
	13:00～15:00	熊野街道を歩く		熊野街道
11/19（木）	10:00～15:00	和泉市内バス研修	和泉観光ボランティアクラブ	和泉市役所裏駐車場
12/3（木）	10:00～15:00	池上曽根遺跡史跡公園（博物館・学習館・情報館）	南 次郎さん（和泉観光ボランティアクラブ）	大阪府立弥生文化博物館
12/17（木）	13:30～15:30	わかりやすい話し方	三品 清次さん（上六話し方教室指導部リーダー）	和泉市役所分館（市民体育館隣）
		修了式・交流会	和泉観光ボランティアクラブ	

費　用：1,000 円（傷害保険料ほか）

定　員：20 名

修了証：全 9 回のうち 7 回以上出席者のみ。

申し込み・問合せ：和泉観光ボランティアクラブ　　090-8824-7870（東川）

懐かしい和泉中央の風景

造成中のトリヴェール和泉（1990年10月）

四半世紀前（25年前）の和泉中央駅の風景をご存じですか？緑がたくさん残る自然のなかにありました。この当時の和泉市人口は146,127人でした。

2015年6月末現在では、人口は187003人、世帯数は76031世帯です。（2015年7月 和泉市HPより）人口減少が顕著の時代のなかで、和泉市の人口は25年の間に40000人以上増えました。和泉中央駅周辺の開発前、開発途中の風景をお届します。

トリヴェール和泉東（学校・都市・住宅）予定地（1996年7月）

和泉中央駅（1994年4月）

和泉市は歴史のある町で弥生文化を知ることも、和泉式部の辿った跡も、光明皇后伝説や葛の葉稲荷伝説なども伝わり、熊野詣での街道を歩くこともできます。和泉中央周辺はまだまだ開発が続きますが、和泉中央からも歩いて歴史を辿ることができますので、昔の和泉市を感じながら歩いてみませんか？

【画像提供：泉北コミュニティー様】

和泉中央駅西側（1996年9月）

和泉の自然を歩いてみませんか？

夫と一緒に、モバイルナビで「槇尾山施福寺」と入力して、ナビのとおりに行ってみようということになりました。そう言えば、和泉観光情報ステーションにシフトに入っていたとき、問い合わせはほとんど「西国三十三所第四番札所」の施福寺だったように思います。「ナビに入力したけれど辿りつけない」という電話が時折ありました。我が家はナビと無縁のドライブが基本でしたが、モバイルの小さなナビを夫が購入したのを機に、ナビが選択する道を運転してみたくなり、「観ボラだより」の原稿のネタ探しに、「槇尾山施福寺ナビ案内」を実際体験してみることにしました。

そのドライブは散々の珍道中で、苦笑い、大笑いの連続で、夫もわたしも物好きと言えば物好きだなと実感する結果になりました。意外な場所に案内され、いろいろな風景を眺めつつ、挙句の果てには、施福寺に到着するどころか、滝畑ダムに着いてしまうやら…　かなり狭い舗装されていない道を脱輪を心配しながら進み、やっと辿りついたのは「槇尾山施福寺裏道登山口」でした。そこには駐車場がないので、結局、槇尾中学校まで戻り、素直にバス道で施福寺へ向かうことにしました。施福寺参道の下にある駐車場に車を停めて、徒歩40分ぐらいで施福寺到着。7月の暑い夏の平日でしたが、20数名の札所巡りをしている方に出逢いました。今年から、いままで拝観することができなかった大仏（おおぼとけ）様、観音様を拝観することができます。（拝観料500円）甘酒など飲むことができたお店がなくなっていましたが、施福寺の公衆トイレが新しくなっていました。ダイヤモンドトレールの看板があり、岩湧山、金剛山が見える展望のよいところにあります。「西国三十三所札所」のなかで、一番厳しい条件のところにある施福寺ですが、桜、青もみじ、紅葉、それぞれの季節の自然を存分に感じることのできるところです。

写真上・ナビに案内された場所です

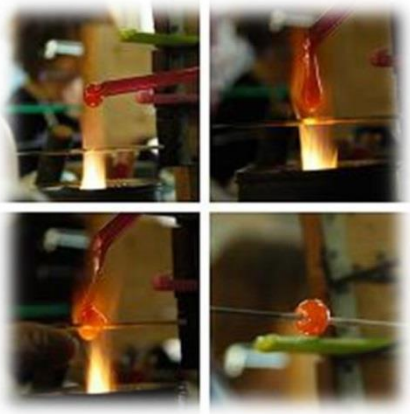
写真・山門と槇尾山施福寺境内風景

和泉の伝統産業を辿る

和泉には様々な伝統産業があります。

そのひとつが、精密かつ繊細な技術が求められるガラス工芸です。ガラスの誕生は紀元前数千年前のメソポタミアかエジプトがルーツだと言われています。浜辺で焚火をしていた船乗りが、潮風から火を守るため、岩塩の塊を風除けとしたところ、熱で溶けだして砂と反応して誕生したという説と火山により自然発生的にできたものという説があります。

ローマ帝国を経由してインドからシルクロードを通る中国ルートにより日本に伝わったと言われています。一方、宣教師フランシスコ・ザビエルが持ち込んだガラスの鏡や望遠鏡からという話もあります。日本でガラスを表す最も古い言葉は瑠璃（るり）玻璃（はる）と云われていますが、時を経てオランダから伝わった Glass から、ガラスと云う言葉が一般的に使われるようになりました。つまり「ガラス」はオランダ語が、語源になっているのです。　（ガラスが溶けてガラス玉になっていく様子）→



（風情ある佐竹ガラスの建物）↓

← 人造真珠

ドブ貝
↓

←世界一長い真珠の
ネックレス

また人造真珠も伝統産業です。当初の人造真珠作りにはプラスチック玉に、キラキラ銀色に光る魚の太刀魚のウロコをすり潰したものを使ったりしていました。泉州の海に豊富な漁場があったので、それが可能だったのです。ドブ貝をすり潰し玉にしたものに薬をぬって作ったものもありました。ドブ貝は黒っぽい貝殻ですが、けずると白くなるそうです。現在ではプラスチック玉に薬品を塗る方法がとられています。

世界一長い真珠のネックレスの記録は、現在でも日本各地で競われていますが 1987 年（昭和 62 年）に神戸市のパールシティー神戸協議会が 80m を記録、2010 年（平成 22 年）志摩観光協会主催で 222m という記録がギネスブックの認定を受けています。

観光ボランティア・出前講座報告

【はつが野いきいきサロン】で、出前講座をしました。「松尾寺」「あの頃のはつが野 」「自慢の青葉はつが野小学校」についてのお話と、観光ボランティア劇団（？）による「貧女の一灯 」のお芝居を披露させていただきました。和泉中央やはつが野の開発時からの写真を泉北コミュニティと文化財振興課からいただき、とても喜ばれました。青葉はつが野小学校は太陽光発電を設置しており、和泉市の小・中学校で初めての試みだったそうです。現在では全国に広がっています。（画像は【はつが野いきいきサロン】）

観ボラの出前講座は回を重ねて 4 回目は消費者の会でした。豊富な活動をしておられる皆さんの熱い眼差しを感じつつ、緊張した面持ちで和泉市の伝説”貧女の一灯”の寸劇を披露しました。クスッと吹き出すセリフや予想されていなかった”チーン”の演出に会場内は大爆笑。パワーポイントと寸劇での和泉市の紹介に満足いただけたと思います。わたしたちも消費者の会の方々から”気”をいただいた出前講座でした。

年輪大学でも出前講座をさせていただきました。他市、他県から和泉市を訪ねてくださるお客様だけでなく、和泉市に住んでいる市民の皆さんにも、和泉の歴史・観光をお伝えできたらと思っています。年間をとおして、地道な活動をこれからも続けていきます。

和泉観光ボランティアガイドへのお問合わせ先「和泉市いずみの国観光おもてなし処」

開所時間・10:00～18:00　　定休日・月曜日（祝日の場合は翌日）年末年始

TEL：0725-40-5552　　FAX：0725-40-5553

和泉観光ボランティア熊野古道研修報告

初夏を思わせる卯月下旬の快晴の日に、熊野古道中辺路現地研修を実施。「案外、楽な道ですね。」「わたしには大変です。待ってください。」という個々に発する言葉の通り、アップダウンが続きます。

「あれは鶏の声？」「カジカも鳴いているよ。」とそれぞれに自然を感じながら、熊野古道からの遠景や情景を満喫してコミュニケーション。

道の駅で買った和歌山名物の目はり寿司を頬ばり、森林浴をしながら、マイナスイオンを浴びてリフレッシュ。

古道沿いの茶屋に入ると、昔懐かしい煤（すす）の匂い。そこからは下り坂でバス乗り場まで歩くので、清水で喉をうるおしたのち、あと一息…と歩きました。

明治の時代、川の中州にあったと云われる大斎原（おおゆのはら）熊野本宮大社旧社地へ行きました。大水害の際に社の全てが流されたそうです。今では夜になればカエルの大合唱が聞こえてくる田園の真っただ中に、遠目にもすぐ目に付く日本一の大鳥居がそびえ立っています。五月晴れの中にそそり立ち一段と威厳を持って迎えてくれたように感じました。

傍らの鯉のぼりが元気よく青空に泳ぎ、端午の節句の季節の感を強くしていました。

本宮跡は何もないただの広場になっていて、そこに小さな祠が立っているのみでした。

石段を四苦八苦息を弾ませ、煩悩を払いながら登りきった先に、緑の森に囲まれた現在の本宮大社の鳳凰が羽を広げた如く構えていました。

わたしたちの住む和泉の郷に伝わる室町時代伝承伝説、照手姫と小栗判官ロマン物語があります。照手姫の引く土車に乗せられ苦難の旅をつづけ、最終地として目指したのが、紀州熊野の湯の峰温泉です。

照手姫の情愛と、熊野権現のご加護と「つぼ湯」に浴するうち薬効の効あって、元の姿に回復したと言われています。

熊野古道から下を流れる川をのぞくと、流れの中ほどに、白い湯の花が咲き乱れ、湯の香り漂う石畳が続きます。「温泉の匂いがしますね。」「つぼ湯には入れるの?」というわたしたちの声に、「3人交代で入れます。」と売店のおじさんが笑顔で応えてくれました。「温泉たまご××円」という看板に、早速「温泉たまご」作りを体験。温泉たまごは15分ぐらいでできあがりました。源泉の湯温は90度。できたての温泉たまごのおいしさは天下一品でした。ほろ甘い味を残した研修となりました。

熊野古道（熊野街道）は、和泉市内を通っています。小栗判官の言伝えがあることから、和泉市では「小栗街道」という人も多いです。

和泉スィーツはいろいろありますが、暑い夏の時期には、やはり「かき氷」が美味しいです。和泉市内のカフェでいただいた宇治抹茶のかき氷は、宇治市本場の味と変わらないほどの美味しさでした。期間限定、季節限定に弱いので、この時期は、ついつい…です。

【編集後記】

観ボラだよりの編集を担当するようになって3年目に入りました。歳月を重ねるほどに、ペンを執るということの奥深さを感じます。パソコンなので、「ペンを執る」「筆を執る」も死語になりつつあるような気もします。

観ボラだよりを編集しながら、わたし自身が毎号「和泉を知る」「和泉を学ぶ」「和泉を発見する」という新鮮な気持ちを味わっています。和泉は記事の宝庫です。

（Maki）